

2020年9月期 第1四半期 決算説明資料

2020年2月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2020年9月期 第1四半期 連結業績概況	2
連結業績ハイライト	3
セグメント別業績	4
投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益	6
エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移	7
投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)	8
受託資産残高の推移	9
連結貸借対照表	10
連結損益計算書	11
今後の見通し	12
連結経営指標等の推移	14
会社概要	15

2020年9月期 第1四半期 連結業績概況

- 前期1Qに開業していなかったムーミンバレーパークの運営による収益が加わり、売上高、売上総利益とも増加。

売上高 2,209百万円 (前期1Q比 +1,189百万円)

売上総利益 696百万円 (前期1Q比 +241百万円)

- 開業準備費用、その他一時的費用がなくなり販管費減少。営業損益は改善。

販管費 955百万円 (前期1Q比 △247百万円) ※販管費は2Q以降も削減予定。

営業損益 △258百万円 (前期1Q比 +488百万円)

投資銀行事業

売上総利益 316百万円 (前期1Q比 +67百万円)

セグメント損益 △71百万円 (前期1Q比 +57百万円)

- ・業務受託、航空機アセットマネジメントが堅調に推移。
- ・前期1Qの企業投資の評価損の影響がなくなる。

エンタテインメント・サービス事業

(売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。)

売上高 1,647百万円 (前期1Q比 +1,162百万円 前期4Q比 △74百万円)

セグメント損益 △18百万円 (前期1Q比 +373百万円 前期4Q比 +59百万円)

【前期1Q比】

- ・ムーミンバレーパーク運営により売上高は240%増加。開業準備費用負担がなくなり、セグメント損益は大きく改善。
- ・減価償却費負担が重くなり、192百万円増の215百万円となる。

【前期4Q比】 (直前四半期との比較)

- ・メツアは各種施策により来園者数は19.8%増加。10月の悪天候やライセンス事業の減収により、売上高は4.3%減少。
- ・イベント費用・販促費は増加するも人件費・外注費をコントロール。営業費用は134百万円減少し、損益は改善。

連結業績ハイライト

【単位：百万円】

	2019/9期					2020/9期	増減額 (前年同期比)	増減率 (前年同期比)
	1Q	2Q	3Q	4Q	4Q累計	1Q		
売上高	1,020	2,257	3,411	2,486	9,175	2,209	+1,189	116.6%
売上総利益	455	495	1,324	669	2,944	696	+241	53.0%
営業利益	△747	△720	160	△356	△1,664	△258	+488	—
経常利益	△804	△762	121	△404	△1,850	△297	+507	—
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△599	△645	34	△376	△1,586	△284	+314	—
償却前営業利益	△679	△568	416	△104	△935	△5	+673	—

・償却前営業利益は、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

セグメント別業績 - 1

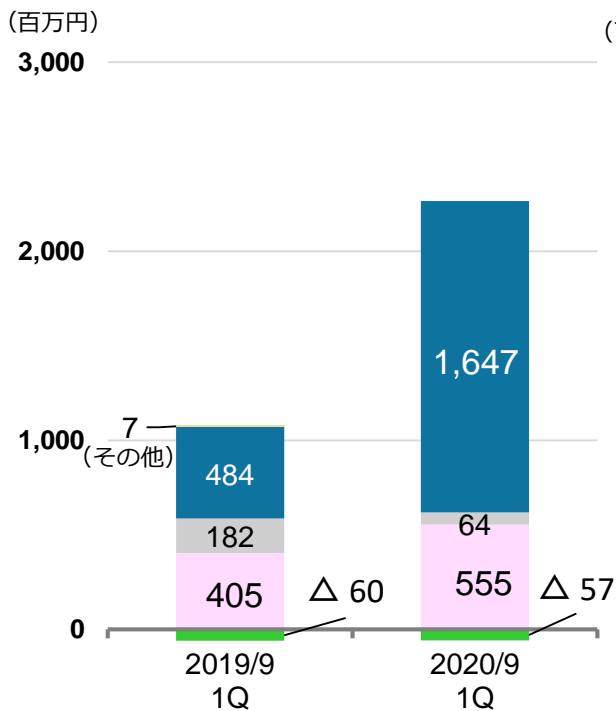
【単位：百万円】

報告セグメント		2019/9期					2020/9期	前年同期比 2019/1Q比	前四半期比 2019/4Q比	主な連結会社
		1Q	2Q	3Q	4Q	4Q累計	1Q			
投資銀行事業	売上高	405	975	1,230	782	3,393	555	+149	△227	当社、フィンテックアセットマネジメント フィンテックグローバルトレーディング フィンテックM&Aソリューション FGIキャピタル・パートナーズ SGI-Group
	売上総利益	249	130	466	293	1,139	316	+67	+22	
	営業利益	△128	△276	26	△100	△478	△71	+57	+28	
公共コンサルティング事業	売上高	182	263	148	79	673	64	△118	△15	パブリック・マネジメント・コンサルティング (ジオプラン・ナムテック)
	売上総利益	88	149	78	47	364	33	△55	△14	
	営業利益	10	65	△3	6	79	△7	△17	△14	
エンタテインメント・サービス事業	売上高	484	1,078	2,122	1,721	5,407	1,647	+1,162	△74	ムーミン物語 ライツ・アンド・プランズ 飯能地域資源利活用合同会社
	売上総利益	131	228	808	376	1,545	376	+245	+0	
	営業利益	△392	△299	346	△78	△423	△18	+373	+59	
その他	売上高	7	13	3	-	24	-	△7	-	(アダコテック)
	売上総利益	7	13	3	-	24	-	△7	-	
	営業利益	△4	0	△8	-	△12	-	+4	-	
調整額 (セグメント間取引 消去又は全社費用)	売上高	△60	△73	△93	△97	△324	△57	+3	+40	
	売上総利益	△21	△26	△32	△48	△128	△29	△8	+18	
	営業利益	△232	△210	△201	△185	△829	△161	+71	+23	
連結P L計上額	売上高	1,020	2,257	3,411	2,486	9,175	2,209	+1,189	△276	
	売上総利益	455	495	1,324	669	2,944	696	+241	+27	
	営業利益	△747	△720	160	△356	△1,664	△258	+488	+97	
関連事項		2018/11 メツァ ビレッジ 開業	2019/3 ムーミン パレーパーク 開業	ジオプラン・ ナムテック、 アダコテック を連結除外						

- 調整額（営業利益）（2020年9月期1Qは△161百万円）には、セグメント間取引消去（2020年9月期1Qは62百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2020年9月期1Qは△224百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。
- 各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。

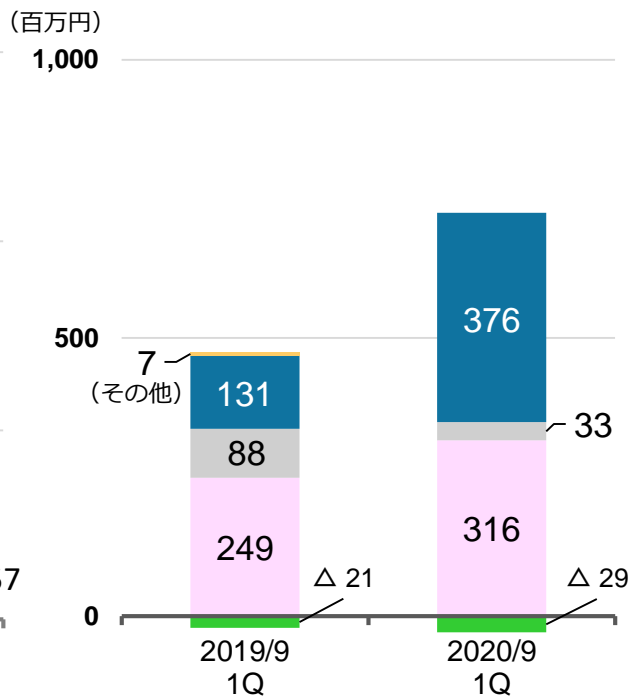
セグメント別業績 - 2

売上高



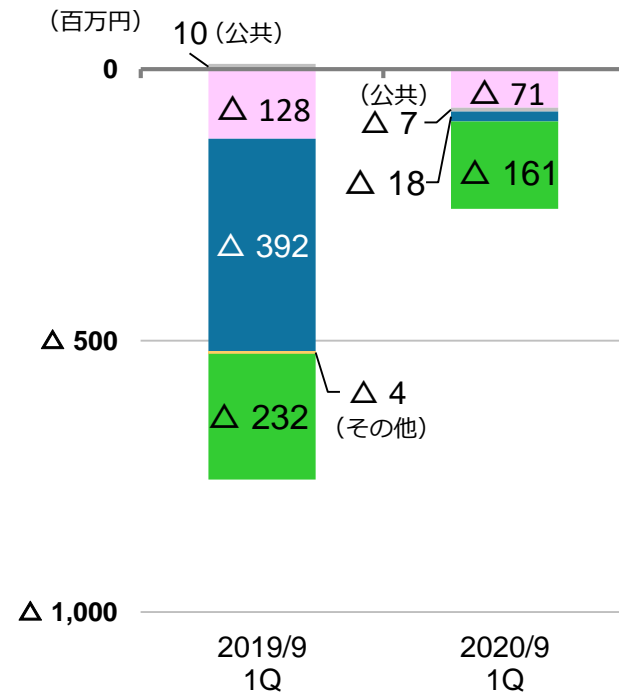
1,020 **2,209**
116.6%増

売上総利益



445 **696**
53.0%増

営業利益



△ 747 **△ 258**

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

■ 投資銀行事業
 ■ 公共コンサルティング事業
 ■ エンタテインメント・サービス事業
 ■ その他
 ■ 全社費用または取引消去

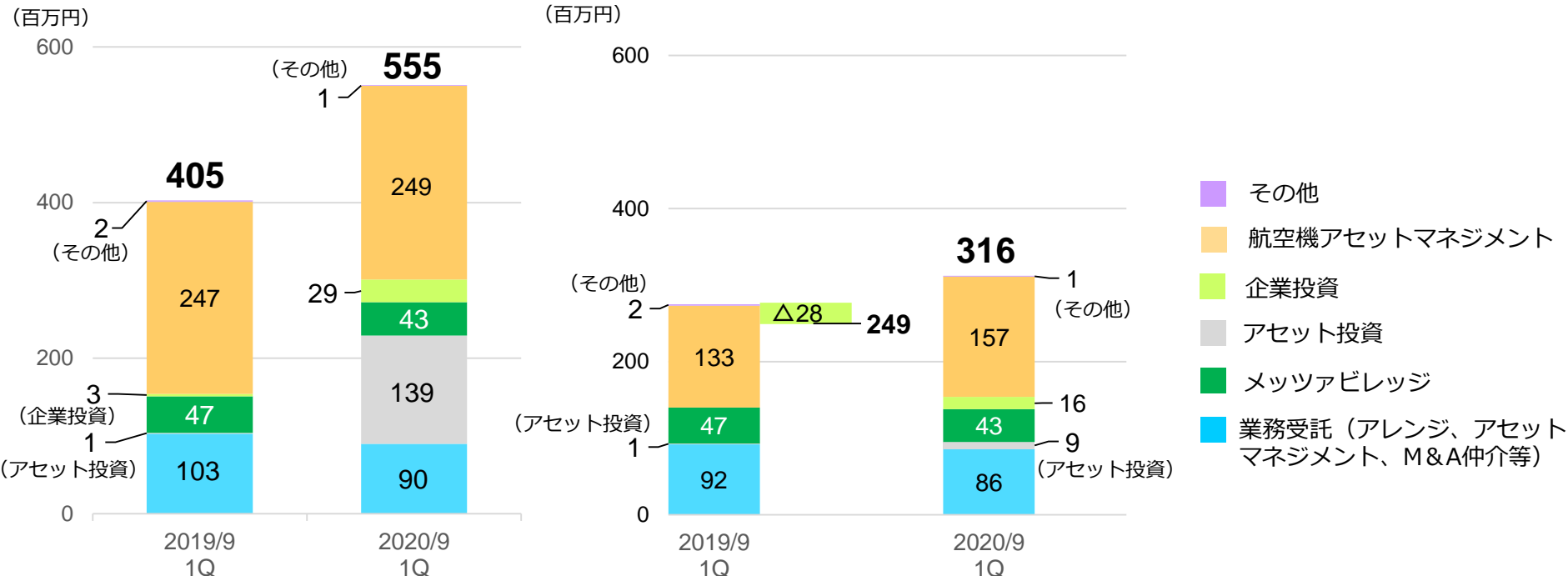
投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

前期の企業投資の評価損の影響がなくなり、売上総利益は前年同期比26.9%増

- ・ 業務受託、航空機アセットマネジメントが堅調に推移。
- ・ アセット投資は回収増により売上高は増加。
- ・ 企業投資はファンド投資で投資回収売上を計上。

売上高

売上総利益

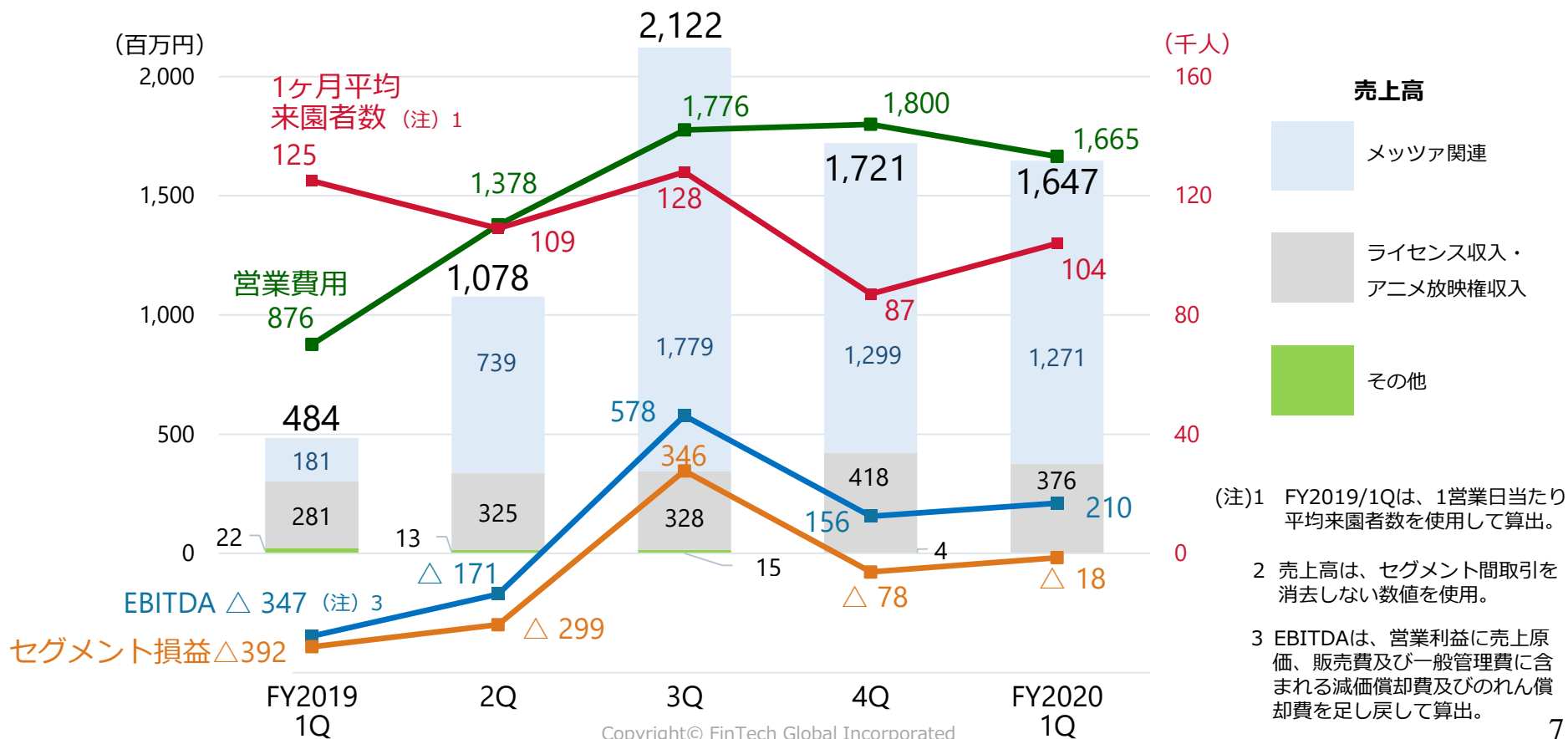


(注) エンタテインメント・サービス事業から投資銀行事業が受け取るメツツアビレッジの賃料などのセグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移（四半期）

前期4Q比で来園者数は増加したが、10月の悪天候の影響やライセンス事業の減収により売上高は4.3%減。イベント・販促費用は増加したが人件費・外注費をコントロールした結果、前期4Q比で営業費用は134百万円減少し、セグメント損益は59百万円改善。

- ・メツツア関連 2019年10月はメツツアが台風で3連休の初日に休園するなどの悪天候の影響を受け、低調。11月以降は、顧客満足度を高めるための施策として、平日の駐車料金無料化、「1デーパス」発売、イベント“WINTER WONDERLAND in MOOMINVALLEY PARK”などにより、来園者数は前期4Qより19.8%増加。
- ・ライセンス関連 前期1Q比ではライセンス収入は増加。前期1Qになかったアニメ放映権収入を計上。売上高は前期1Q比33.6%増。



投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)

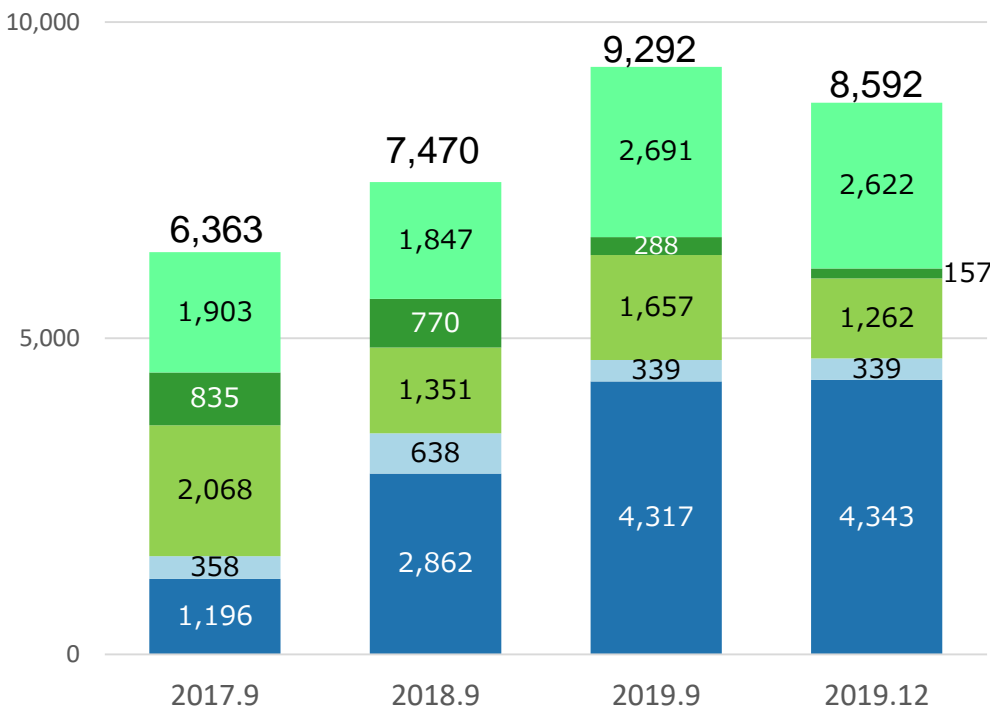
ムーミンバレーパーク保有のSPCへの貸付を回収。成長企業への新規投資は継続実行。

2020年9月期1Q (2019/10~2019/12)の主な変動要因)

- ・プリンシパルインベストメント 【投資実行】成長企業(1社)に新規投資。【投資回収】不動産案件、企業投資案件の回収。
- ・ベンチャーキャピタルファンド FGFへの投資額は、FGF投資先である創薬関連会社の投資回収により減少。
(投資回収による損益取込の売上高は当1Qに計上)。FGF残高は0.5億円となる。
- ・企業融資 前期に実行した飯能地域資源利活用合同会社へ貸付を回収。

当社(FGI)、フィンテックグローバルトレーディング (FGT) の投融資合計額 (子会社への出資を含む)

(単位: 百万円)



(注) FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

- プリンシパルインベストメント**
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金、出資金の合計額。
- ベンチャーキャピタルファンド**
FinTech GIMV Fund (FGF)、他2ファンドへの投資
- 企業融資**
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。
- 不動産等(投資銀行事業)**
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。
- 不動産等(メッツァ)**
メッツァにおける不動産。メッツァビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

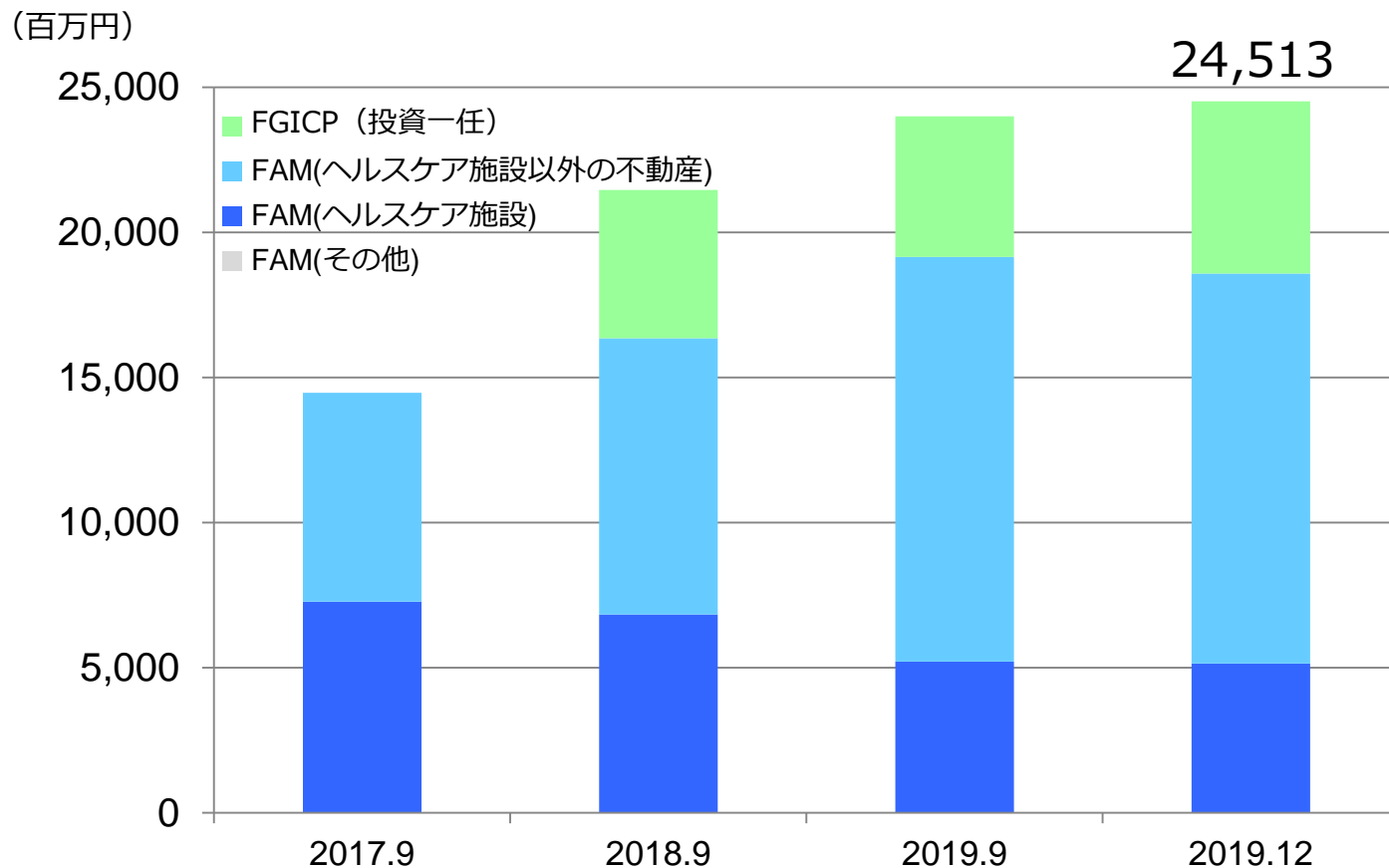
受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント (FAM)
FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP)

FGICPが、新規受託等により国内、海外とも運用資産が増加。
グループの受託資産残高は前期末比2.2%増加。

※ヘルスケア施設：高齢者向け住宅を主とする施設

※受託資産残高は入手可能な直近の財務諸表や不動産の取得価額等を基に算出



連結貸借対照表

資産の部

	19年9月期	20年9月期 第1四半期	増減
流動資産	10,438,589	10,313,804	△ 124,784
現金及び預金	2,533,187	2,547,258	14,070
受取手形・売掛金	727,499	679,240	△ 48,258
1 営業投資有価証券	1,359,941	1,107,410	△ 252,531
営業貸付金	548,625	533,813	△ 14,811
販売用不動産	4,211,988	4,238,709	26,720
商品	208,577	270,734	62,156
その他	948,410	1,028,245	79,835
貸倒引当金	△ 99,641	△ 91,607	8,034
固定資産	8,586,424	8,387,729	△ 198,695
2 有形固定資産	7,283,853	7,146,874	△ 136,978
無形固定資産	724,929	684,154	△ 40,775
投資その他の資産	577,641	556,700	△ 20,941
資産合計	19,025,014	18,701,533	△ 323,480

1 成長企業（1社）への新規投資を実行。
ベンチャーキャピタルファンド（FGF）は、投資先である創薬関連会社のエグジットに伴い、当社は分配を受ける。また、子会社SPCの不動産信託受益権売却が進んだことにより減少。

2 ムーミンバレーパークにおいて、コンテンツ充実のための投資を継続的に実施しているが、建物、内外装等の減価償却により減少。

負債の部

（単位：千円）

	19年9月期	20年9月期 第1四半期	増減
流動負債	3,010,093	3,143,053	132,960
支払手形・買掛金	213,256	390,693	177,436
短期借入金	373,904	468,304	94,400
1年内返済予定の 長期借入金	752,968	645,596	△ 107,372
未払法人税等	98,999	80,049	△ 18,950
賞与引当金	157,244	92,319	△ 64,925
その他	1,413,720	1,466,090	52,370
固定負債	7,141,750	7,003,472	△ 138,278
長期借入金	6,086,260	6,016,589	△ 69,671
退職給付に係る負債	94,633	98,172	3,538
その他	960,856	888,711	△ 72,145
負債合計	10,151,843	10,146,526	△ 5,317

純資産の部

株主資本	7,480,064	7,195,540	△ 284,524
資本金	6,461,911	6,462,062	151
資本剰余金	5,015,924	5,016,132	208
利益剰余金	△ 3,997,770	△ 4,282,655	△ 284,884
その他の包括利益累計額	△ 33,493	△ 44,823	△ 11,329
新株予約権	65,837	61,220	△ 4,616
非支配株主持分	1,360,762	1,343,069	△ 17,692
純資産合計	8,873,170	8,555,007	△ 318,162
負債純資産合計	19,025,014	18,701,533	△ 323,480

連結損益計算書

	2019年9月期 第1四半期		2020年9月期 第1四半期		(単位：千円) 増減額 増減率	
		売上比		売上比		
売上高	1,020,148	100.0%	2,209,465	100.0%	1,189,317	116.6%
売上原価	564,807	55.4%	1,512,927	68.5%	948,120	167.9%
売上総利益	455,340	44.6%	696,537	31.5%	241,196	53.0%
販売費及び一般管理費	1,202,697	117.9%	955,454	43.2%	△ 247,242	△ 20.6%
営業損失 (△)	△ 747,356	△ 73.3%	△ 258,917	△ 11.7%	488,439	—
営業外収益	6,781	0.7%	4,768	0.2%	△ 2,013	△ 29.7%
営業外費用	64,019	6.3%	42,869	1.9%	△ 21,149	△ 33.0%
経常損失 (△)	△ 804,593	△ 78.9%	△ 297,017	△ 13.4%	507,576	—
特別利益	1,448	0.1%	4,486	0.2%	3,038	209.7%
特別損失	178	0.0%	2,140	0.1%	1,961	1,098.3%
税金等調整前四半期純損失 (△)	△ 803,323	△ 78.7%	△ 294,671	△ 13.3%	508,652	—
法人税等合計	7,310	0.7%	2,701	0.1%	△ 4,608	△ 63.0%
四半期純損失 (△)	△ 810,633	△ 79.5%	△ 297,372	△ 13.5%	513,261	—
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△ 211,278	△ 20.7%	△ 12,488	△ 0.6%	198,789	—
親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△ 599,355	△ 58.8%	△ 284,884	△ 12.9%	314,471	—

1

当第1四半期は、前第1四半期に開業していなかったムーミンバレーパーク運営による収益費用により、売上高、売上原価ともに大幅に増加。

2

前第1四半期のメッツァ開業準備費用の負担、その他一時的費用がなくなる。連結子会社減少もあり、前第1四半期比で20.6%減少。

今後の見通し - 1

中期経営計画を2020年3月頃を目途に策定し公表する予定

当期の連結業績予想は、この中期経営計画とともに開示予定。

収益向上のため、現在取り組んでいる主な事項は、

投資銀行事業、エンタテインメント・サービス事業において、それぞれ以下の通り。

投資銀行事業

投資回収

- ・ アセット投資・・・保有物件の売却活動を推進中。当期中の収益化を企図。
- ・ 企業投資・・・・・・・・投資先のIT企業数社のファンド化・エグジットを検討中。

メッツアビレッジ収益力向上策の検討

- ・ 遊休地活用や新規テナント等により、収益力をさらに向上させる方策を検討。
- ・ 収益力を向上させた上で、証券化などを検討。

エンタテインメント・サービス事業

顧客満足度の向上を通じた収益向上

— 満足度アップにより、来園者数を拡大 —



WINTER WONDERLAND
in MOOMINVALLEY PARK

(3/8まで)

ムーミン屋敷のプロジェクションマッピングによる
ショーなどが楽しめる。



ムーミンバレーパーク開業
1周年に向け、コンテンツ
充実予定。

コンテンツ拡充

・ソフト、ハードとも
コンテンツを拡充

イベント開催

・魅力あるイベントの
定期的な実施

サービス充実化

- ・平日の駐車料金無料キャンペーン
 - ・チケット券種、内容の改定
- 2019/11/30から1デーパスの販売を開始。



ストーリーの扉

ムーミンのエピソードを数分間の映像に。2019/11/30から園内各所に設置。この春にも新設予定。



ストーリーガイド

ムーミンのストーリーのガイドをパーク内で集める。2019/11/30より配布。

© Moomin Characters ™

連結経営指標等の推移

		2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年9月期 第1四半期
売上高	(百万円)	5,429	7,485	7,182	3,689	9,175	2,209
売上総利益	(百万円)	2,495	1,496	1,626	2,261	2,944	696
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 258
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 297
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 284
純資産	(百万円)	7,879	6,312	5,326	8,551	8,873	8,555
総資産	(百万円)	11,958	10,975	12,932	14,016	19,025	18,701
1株当たり純資産	(円)	48.31	38.66	29.64	39.31	37.03	35.56
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 1.42
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	1.47	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	65.4	57.0	37.1	52.2	39.1	38.2
自己資本利益率	(%)	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	-
株価収益率	(倍)	84.7	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,791	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978	△ 2,604	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,761	△ 751	2,937	5,771	5,710	-
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,612	2,240	2,969	3,847	2,513	-
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	117(8)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	169(273)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	33(1)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	201,114,600株 (2019年12月31日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	6,462百万円 (2019年12月31日現在)		
連結純資産	8,555百万円 (2019年12月31日現在)		
大株主 (2019年9月30日現在)	玉井 信光	20,095,500	(9.99%)
	藤井 優子	3,576,400	(1.78%)
連結従業員数	169名 (2019年12月31日現在、臨時従業員含まず)		

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2020年9月期第1四半期に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」といふことがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。